



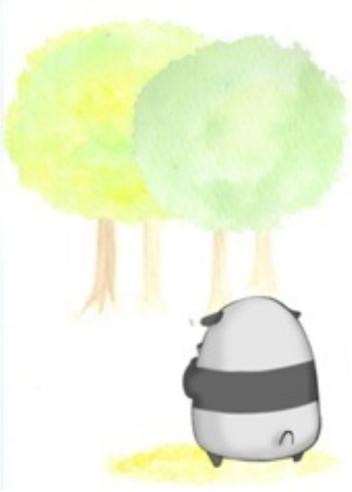
ある森にいっぱいきのぱんだが住んでいました。

ぱんだくんはいつもお腹を減らしていました。



食べても食べても

ぱんだくんはおなかが減るのです。



ついにぱんだくんは、森のりんごを食べ尽くしてしまったのです。
それでもまだまだお腹が減っています。



ぱんだくんはお腹いっぱいになる為に旅に出ました。



鳥さんの食べていた木の実を奪って・・・



猫さんの食べていた魚を奪って・・・



ネズミさんの食べていたチーズを奪って・・・



全部食べてしまいました。

もぐもぐもぐ。



それでもちっともお腹がいっぱいになりません。



ぱんだくんは悲しくなってきました



とってもとっても悲しくて、
ぱんだくんは『えーんえーん』と泣き始めました。



そこへ、隣の森に住むうさぎがやってきました。



: 『おや、君はいつもハラペコなぱんだくん。
そんなに泣いて、どうしたの？』
ぱんだくんはポロポロ泣きながらうさぎを見ます。

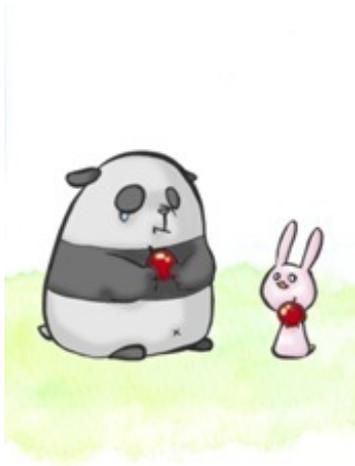


『何を食べてもお腹が減るんだ
食べても食べても、いっぱいにならないんだ』



オイオイと泣くぱんだ君が可愛そうに見えたうさぎは、
『そうだ、ぼく、良いものもって来たんだ！一緒に食べようよ！』
と、言いました。

うさぎが取り出したのは2つのリンゴでした。



『りんごはもう食べ尽くしたんだ』
ぱんだは悲しげに言いました。
あれだけりんごを食べたのにお腹が減るんだから、
きっとこのりんごを食べたっていっぱいにならないと思っているのです。

『2つじゃお腹いっぱいにならないよ』
『ばかだなあ！ぼくと1つずつ食べるんだよ！』

うさぎはりんごを1つぱんだに渡しました。



そして2匹はそれぞれリンゴをかじりました。

あれあれあれ！？

ぱんだは不思議な気分です。



『とっても美味しいよ！』
ぱんだくんは「おいしい」という感情ではじめてリンゴを食べました。

今まで1匹で食べていたので、
「誰かと食べる」と言うこともはじめてでした。



『2人で食べると美味しいね』
うさぎはニコッと言いました。



ぱんだくんはその通りだなあと思ったのです。

それからぱんだ君は、みんなで食事をするようになり、
いつもおいしくご飯を食べられるようになったのです。